

2016年度 漢城大学サマープログラム参加報告書

北海道教育大学函館校 地域協働専攻国際協働グループ3年 鎌田大夢

私は8月17日～8月30日の2週間、漢城大学でのサマープログラムに参加してきました。今回のサマープログラムは日本に加え、中国からの学生の参加もあり日本人12名、中国人14名と規模の大きなものでした。プログラムは大学での講義と様々な体験学習で構成されており、2週間にわたってみっちりスケジュールが組まれ、様々な経験をすることができました。

大学内の講義は日本クラスと中国クラスに分かれて行われ、日本クラスでは漢城大学の日本人講師の土井美穂先生が講義をして下さいました。講義の内容は韓国語と韓国の文化や社会についてで、韓国語の講義は自分たちに合わせた難易度で行われ、韓国人の学生が発音の練習についてくれました。韓国での生活のなかで使える韓国語を学び、すぐに実践的に使うといったように非常に有意義な学習ができたと思います。また、講義は土井先生のお話を一方的に聞くのではなく、自分たちからも発言や質問が気軽にでき、2時間という時間があっという間に感じられるほど楽しい講義でした。土井先生の講義の中で最も印象に残ったのは、「日本と韓国は似ている部分があるからこそ誤解が起きやすい」という言葉です。韓国について学んでいくと、日本と似ている部分とともに考え方や感じ方の違いも見えてきました。こういったことを知ることができたのもプログラムに参加して得た大きな収穫のひとつです。



←講義の風景

2週間のプログラムのなかで、本当にたくさんの体験学習をさせていただきました。様々な観光地を訪れ、所々で貴重な体験ができました。全て紹介したいところですが、特に印象に残っている広蔵市場(クァンジャンシジャン)とDMZ(非武装地帯)での体験を紹介します。広蔵市場(クァンジャンシジャン)は屋台が所狭しと並び活気にあふれた食べ物市で、チヂミやスンド、キンパなどの韓国グルメを堪能しました。ここでは、少しの量で色々なものを食べるのがいいと思います。DMZ(非武装地帯)ではツアーガイドさんの話を聞きなが

ら、見学をしました。南北分断の歴史と朝鮮戦争は未だに休戦状態であることを間近に感じることで、日本にはない緊張感を味わいました。

↓広蔵市場(クァンジャンシジャン)



↓DMZ(非武装地帯)



2週間の期間で多くの思い出ができました。プログラム外でも韓国のお酒を嗜んだり、プロ野球を観に行ったりなど挙げればきりがありません。このサマープログラムでの一番の思い出は漢城大学の韓国人学生との交流です。日本チームと中国チームのそれぞれに4人ずつ韓国人の学生がバディとしてついてくれていて、体験学習のときはいつもバディと行動し、プログラム中多くの時間を共にしました。日本のこと、韓国のこと色々な話をしました。彼らとの時間が自分にとって一番の思い出です。

漢城大学でのサマープログラムを通して、様々なことを見て聞いて体験できたことに加えて、これからの大学での勉強の目的を持つことができました。私はこのサマープログラムは心からお勧めできる海外体験のプログラムだと思います。この報告書を見て、迷っている方がいれば是非参加を検討してみてください。何か詳しく聞きたいことがあれば気軽に聞いて欲しいと思います。最後に、この場を借りてチェ・ミンイ先生や土井先生をはじめとした先生方、バディの学生のみなさん、プログラムに関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました！